

プログラム日程

第11回 日本静脈経腸栄養学会 九州支部学術集会

会期：2019年11月30日（土）

会場：JR九州ホール[9F]

当番世話人：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長）

9:30～9:35(5分)	開会の辞 当番世話人：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長）
9:35～10:35(60分)	特別講演 地域特性を生かした医学教育の取り組み ～シームレスな卒前卒後教育をめざして～ 加治 建（鹿児島大学病院 総合臨床研修センター 特例教授、副センター長） 司会：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長）
10:35～11:25(50分)	教育セミナー 1 大地震の中の病院 病院の中の大地震 野上 哲史（特定医療法人萬生会 熊本第一病院 病院長） 司会：靄 知光（聖マリア病院 臨床・教育・研究本部 部長、副院長）
11:25～12:00(35分)	休憩（世話人会：会議室3）
12:00～13:00(60分)	ランチョンセミナー 究極の栄養評価法 体組成分析を極めよう 山内 健（産業医科大学病院 小児外科 准教授、診療科長） 司会：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長） 共催：株式会社大塚製薬工場
13:00～13:10(10分)	総会 当番世話人：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長）
13:10～14:10(60分)	一般演題（10分x6題）（口演6分、質疑4分） 座長：藤田 文彦（久留米大学医学部外科学講座 准教授） 伊東 弘樹（大分大学医学部附属病院 薬剤部 部長、副院長） 1) 推定消費エネルギー量を充足していない長期経腸栄養患者は体重減少するのか？ ○古賀標志、前田圭介、牛嶋さおり、大園倫実、南竹佳奈、古森顕一 （悠紀会病院 栄養管理科、愛知医科大学大学院 緩和・支持医療学、悠紀会病院 内科） 2) 当院のIBDセンターにおける栄養科の取り組みについて ○境田奈津子、豊田裕輝子、後藤有規子、松岡良美 （大腸肛門病センター 高野病院） 3) 当院における超高齢者に対する栄養介入-MNA-SFを用いた栄養評価- ○濱田美帆、尾本 至、坂本美絵、安永 亘、安田淑子、坂口 彩、牧角羊子、奥村 浩、牧角寛郎 （社会医療法人聖医会 サザン・リージョン病院 栄養サポートチーム） 4) 経腸栄養剤によるバルブ阻害が疑われた抗NMDA受容体脳炎後遺症の1例 ○山村亮太、大塚恵理子、甲斐真己都、龍田涼佑、田中遼大、内田大達、伊東弘樹 （大分大学医学部附属病院薬剤部、大分大学医学部神経内科） 5) 銅欠乏症を呈した成人発症スチル病における純ココア投与の一例 ○安藤翔治、宮平明奈、稲富悠夏、宮田 萌、桑原淳子、園本格士朗、末永康夫 （独立行政法人国立病院機構 別府医療センター栄養管理室、リウマチ科、 Friedrich Alexander University Erlangen-Nürnberg, Department of Internal Medicine3） 6) 長期経鼻胃管栄養と嚥下訓練を行い経口で栄養摂取が可能となった糖尿病患者の1例 ○葉山雄大、松村菜瑠実、西田愛夢 （宮崎生協病院）
14:10～14:25(15分)	休憩
14:25～15:15(50分)	教育セミナー 2 医療ICTを用いた栄養地域連携に向けて 佐藤 清治（佐賀県医療センター好生館 館長） 司会：白尾 一定（独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 病院長）
15:15～16:05(50分)	教育セミナー 3 病院・施設から飛び出せ！ 地域で考える栄養ケアの在り方とWAVES 吉田 貞夫（ちゅうざん病院 副院長・金城大学 客員教授） 司会：大久保 恵子（社会医療法人 製鉄記念八幡病院 地域医療・情報センター 副センター長）
16:05～16:10(5分)	次期開催施設挨拶 次期当番世話人：大脇 哲洋（鹿児島大学大学院 歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 教授） 閉会の辞 当番世話人：石橋 生哉（公立八女総合病院 外科部長、副院長）

第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部会を終えて

2019 年 11 月 30 日土曜日に例年通り JR 九州ホールにて第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を開催させていただきました。

今回は、地域医療連携が必要とされる近年の医療情勢を見据えて、地域医療連携の中での栄養療法や NST 活動を考えるうえで必要と思われる内容を特別講演ならびに教育講演でご講演いただきました。特別講演では、鹿児島大学病院総合研修センターの加治建先生から、メディカルスタッフがあまり知らない卒然卒後の医学教育と地域医療とのかかわりについてご講演いただきました。教育セミナー 1 では、熊本第一病院の野上哲史先生から熊本大地震のときの経験を踏まえて医療連携の重要さと問題点についてお話いただきました。教育セミナー 2 では、佐賀県医療センター好生館の佐藤清治先生から医療 ICT を用いた地域連携の現在と今後の展望を述べていただき、教育セミナー 3 ではちゅうぎん病院の吉田貞夫先生から病院や施設以外での地域における栄養ケアの一つの形として WAVES という取り組みを紹介いただきました。我々が地域医療を行う上で、医療連携は切っても切れないものであり、また、NST 活動はその先陣を切って連携できるものの一つになる可能性があります。本学術集会に参加された方々にとって、少しでも有意義なものであり、今後の実践に役立てていただければと思います。

また、本学術集会には一般演題を 6 題いただき、いずれも興味深い内容で活発な質疑応答を行っていただきました。さらに、ランチョンセミナーでは産業医科大学病院小児外科の山内健先生から栄養評価法についてご講演いただき、そのなかでも体組成分析に焦点を当てて詳しく解説していただきました。多くの参加者にとって大いなる学びの場になったことと思います。この場をお借りして、ご講演いただいた先生方ならびにご発表いただいた先生方、座長の労をいただいた先生方、積極的に本学術集会に参加いただいた学会員の皆様に御礼申し上げます。

さて、今年から JSPEN の学会名称が変わるため日本静脈経腸栄養学会という名称を九州支部学術集会で使用するのは今回で最後になります。日本静脈経腸栄養研究会のころからお世話になってきた私としては大変感慨深いものがありますが、今後も、多くの学会員にとって、ひいては患者さん方にとって役に立つ学術集会であることを祈念しております。

第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会
当番世話人 公立八女総合病院 石橋生哉